

探訪 北の風景 108

しかりべつ湖コタン 十勝管内鹿追町

青木和弘

「しかりべつ湖コタン」を訪ねた。結氷した然別（しかりべつ）湖に冬だけ姿を見せる村だ。雪水で築かれた建造物に使われているのは、すべて然別湖から切り出した氷である。1980年から始まったこのイベントは、湖の氷上露天風呂として知られていたが、近年は、「とち鹿追ジオパーク」の冬のツーリズムイベントとして定着して、外国人観光客も多数訪れる。本年は1月28日から3月12日まで然別湖畔温泉近くの湖面で開催された。

ジオパークとは、地球科学的な価値を持つ遺産を保全し、教育やツーリズムに活用しながら、持続可能な開発を進めようという地域認定のプログラムだ。ジオパークは、地球や大地を意味するジオ（Geo）と公園を意味するパーク（Park）とを組み合わせた造語で、2000年にヨーロッパジオパークネットワーク（EGN）が設立され、この取り組みのスタートとされる。日本では2008年に日本ジオパーク委員会（JGC）が発足している。

とち鹿追ジオパークは十勝平野の北西部に位置する鹿追町全域がエリアだ。十勝は国内有数の食料基地で、同町も酪農と畑作を基幹産業とする。町の北部は大雪山国立公園に含まれ、公園内の山々や然別湖周辺には多くの観光客が訪れる。

とち鹿追ジオパークは、国内で唯一「凍（し）れ」をテーマに掲げ、凍れが作り出した「風穴（ふうけつ）」と呼ばれる地形や、氷河時代からの生き残りと言われるエゾナキウサギなどの貴重な生態系、寒冷地に暮らす生活の知恵や大地の恵みを、体験しながら学び、楽しむことができる場所だとアピールしている。

ジオパークにはユネスコが認定する世界ジオパークと、国内で独自に認定する日本ジオパークがあり、日本ジオパークには国内にある世界ジオパーク9カ所も含まれていて、現在46地域が登録されている。道内には、世界ジオパークでもある「洞爺湖有珠山ジオパーク」と「アポイ岳ジオパーク」、それに日本独自の「白滝ジオパーク」と「十



かんの温泉は13の源泉を利用して11の湯舟を設けている。浴室は新しくなったが、湯は源泉かけ流しで、湯の質は以前と変わらず新鮮だ。ただ、宿泊施設と浴室は別棟なので、宿泊者は入浴のために一旦、野外に出なければならない。男女の浴室は一日一回入れ替えがある。また、携帯電話は圏外だがWi-Fiは使える。

勝岳ジオパーク」もある。

話しは変わるが、火山活動は自然景観をドラマチック変える。然別湖は30万年前からの火山活動で川がせき止められてできた道内で一番標高の高い天然の湖である。国内でもトップクラスの透明度を誇り、夏季はカヌーやカヤックの体験ツアーができる。湖に漕ぎ出すと、ゴツゴツした岩肌や急に深くなるすり鉢状の構造も見ることができる。

然別湖の北西、然別火山群を間に挟んで名湯「然別峡かんの温泉」がある。温泉も火山がもたらす大地の恵みである。同温泉によると、この宿は1911（明治44）年に開業し、「菅野（かんの）で治らぬ病なし」と言われ、戦前は陸軍の保養所が設置されていたという。戦後も湯治場として繁盛したが、2008年に廃業し、その後、（株）鹿追ホットスプリングスが買収して2014年に再開した。施設は新しくなったが、湯は源泉かけ





しかりべつ湖コタンには、家族連れや、観光バスで訪れる外国人の姿が多い。コタンの入り口近くにアイスバー・アイスホールがあり、一番奥にアイスチャペルがある。氷の建造物はすべて然別湖から切り出した氷を使っている

神田日勝記念美術館は見逃
せない。場所は「道の駅し
かりべつ」の隣にある「鹿
追 町民ホール」の南隣



「道の駅しかおい」の右側
に「とかち鹿追ジオパルク
情報館」があるので、ぜひ
ご利用いただきたい

流して肌触りが柔かく、ツルツル、スベスベして
以前と変わらない。
この地域は温泉の宝庫で、シイシカリベツ川の
中に「鹿の湯」をはじめとする無料で入浴できる
露天風呂や野湯が点在する。
また、鹿追町は実に見どころが多く、体験型レ
ジャーも豊富だ。乗馬には「道の駅うりまく」に
隣接したライディングパークがあり、乗馬ツアー
や犬ぞり体験、熱気球やカヌー・カヤック、森歩
きなどのガイドなども鹿追観光協会のホームペ
ージで探すことができる。
忘れてならないのが神田日勝記念美術館だ。鹿
追の戦後開拓の暮らしを描いた農民画家の魂の叫
びを見てほしい。また、開拓期に木材や農産物の
輸送で活躍した河西鉄道と北海道拓殖鉄道の交差
橋台跡などの鉄道遺構や、拓鉄の8622機関車
も展示されているから鉄道ファンは見逃せない。